

2025年度前期 開講学科別集計結果表

常葉大学

開講学科	健康鍼灸学科	履修者数	489
		回答者数	331

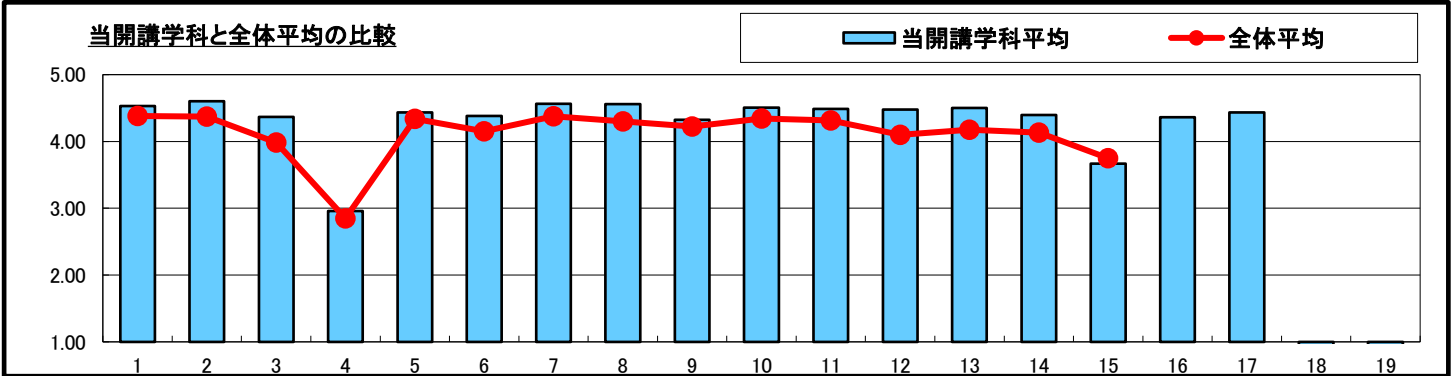
学年 マーク	回答者数／構成比（％）				
	1年	2年	3年	4年	無効回答
	102 30.8	126 38.1	51 15.4	52 15.7	0 0.0

No.	設問文	平均	回答者数／構成比（％）					有効 回答	無効 回答	
			5	4	3	2	1			
			とても そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
▼全学部共通の質問項目										
1	学修環境（プロジェクタ・音響・空調・照明・静粛性）は良好であった	4.53	210	97	18	2	4	331	0	
			63.4	29.3	5.4	0.6	1.2			
2	クラスサイズ（受講者数）やグループサイズは適切であった	4.60	223	90	14	2	2	331	0	
			67.4	27.2	4.2	0.6	0.6			
3	周りの学生の熱意が感じられた（熱心に授業に参加していた）	4.37	174	121	25	5	6	331	0	
			52.6	36.6	7.6	1.5	1.8			

▼学部レベルの質問項目									
4	この授業に対する授業時間外学修にどの程度の時間を費やしましたか（1回の授業の前後）	2.96	2時間以上 56 16.9	1時間以上 2時間未満 72 21.8	30分以上 1時間未満 70 21.1	30分未満 69 20.8	全くして いない 64 19.3	331	0
5	シラバスに則した内容の授業が行われていた	4.43	191 57.7	101 30.5	33 10.0	3 0.9	3 0.9	331	0
6	この科目の難易度は適切であった	4.38	186 56.2	103 31.1	27 8.2	12 3.6	3 0.9	331	0
7	この科目は学部・学科の学びを深める上で有益であった	4.56	222 67.1	85 25.7	15 4.5	6 1.8	3 0.9	331	0
8	この科目は自らのキャリア形成や将来を考える上で役立った	4.56	217 65.8	93 28.2	10 3.0	7 2.1	3 0.9	330	1
9	【対面授業の場合】 この科目は対面で受講することが適切であった 【ポータルサイト等を活用した授業（オンライン授業）の場合】 この科目はオンラインで受講することが適切であった	4.32	199 60.3	81 24.5	23 7.0	12 3.6	15 4.5	330	1

▼教員個人レベルの質問項目									
10	教員の話し方は明瞭で聴き取りやすかった	4.51	212 64.4	89 27.1	16 4.9	7 2.1	5 1.5	329	2
11	板書、スライド、配布資料などは適切であった	4.49	208 63.2	89 27.1	20 6.1	9 2.7	3 0.9	329	2
12	学生に質問や意見を求める、発表の機会を設けるなど授業への参加を促していた	4.48	209 63.5	85 25.8	23 7.0	7 2.1	5 1.5	329	2
13	学生の反応や理解を確認しながら授業を展開していた	4.50	213 64.5	88 26.7	18 5.5	4 1.2	7 2.1	330	1
14	必要に応じて学生の受講態度への注意を適切に行っていた	4.40	189 57.3	99 30.0	31 9.4	6 1.8	5 1.5	330	1
15	この授業のシラバスを読みましたか	3.67	十分に 読んだ 119 36.1	よく読んだ 76 23.0	どちらとも いえない 73 22.1	ほとんど 読まなかった 31 9.4	全く読んで いない 31 9.4	330	1

▼学科設問									
16	この授業の到達目標に対して、自分の到達度はどれくらいですか	4.36	166 50.3	130 39.4	25 7.6	5 1.5	4 1.2	330	1
17	この授業の評価方法（成績、試験など）は適切でしたか	4.43	191 57.9	107 32.4	22 6.7	4 1.2	6 1.8	330	1
18		-	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0	331
19		-	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0	331



2025 年度前期授業アンケート 学科別集計結果表に対する講評

学科／課程	健康鍼灸学科
講評者	学科長 沢崎 健太

設問	講評
設問 1～3 「全学部共通の質問項目」について	学修環境、受講者数、学生の熱意について、学生は概ね満足しているものの、一部で改善を求める声も見受けられました。特に、自習スペースやオンライン環境の充実、大人数講義での個別対応の難しさ、学生のさらなる熱意向上への期待が課題として挙げられています。学生の学びをより促進できるよう、ハード・ソフト両面での環境整備を進め、すべての授業で質の高い学びを提供できるよう努めます。
設問 4～9 「学部レベルの質問項目」について	授業時間外の学修や授業の有益性、将来への関連性について、学生の意識にばらつきがあることが分かりました。授業内容の有用性をより明確に伝えるため、具体的な事例や社会での応用例を積極的に取り入れていきます。また、シラバスと実際の授業内容の一致を徹底し、難易度についても学生のレベルに合わせた柔軟な対応を教員間で共有します。学びがキャリアにどう繋がるかを示す機会も増やしていきます。
設問 10～15 「教員個人レベルの質問項目」について	教員の話し方や資料の分かりやすさは高く評価されていますが、一部で改善を求める声も聞かれます。教員間で授業方法について話し合う機会を設け、より学生が理解しやすい工夫を共有します。また、学生の意見や参加を促す工夫や、受講態度への適切な注意についても、学生の学びへの意欲を削がないような配慮を徹底するよう指導します。
設問 16～ 「学科設問」について（該当学科のみ）	学生は自身の到達度を実感している一方、目標とする到達度が明確でないとの声もありました。学科の教育目標と各科目の学習目標をより分かりやすく提示することで、学生が自身の成長を客観的に把握できる仕組みを構築します。また、評価基準の透明性を高めるため、シラバスへの詳細な明記と授業内での説明を徹底し、学生が納得して学修に取り組めるよう努めます。